

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

何日か前、暑いまっ昼間に、突然クシャミが出てとまらなくなった。研究室の学生もいつせいにクシャミを始めた。いったいなぜだか、さっぱりわからない。一階へおりてみると、下の住民もみんなそろってクシャミをしている。まもなく三階からもかけおりてきて、建て物じゅうキツネにつままれたような感じになった。

やがて、原因はすぐ前の草地にまいている除草剤であることがわかった。さつそく文句をいいにいったが、これは有毒な薬ではないという答えだった。「毒がないたつてこんなにクシャミが出るんだから……。」といつても、おい□□とは聞き入れそうもない雰囲気であった。

隣人にさんざんクシャミをさせてまで、なぜそんなにムキになって草を退治したいのだろう？ ぼくのすんでいる公務員住宅でも、夏になると月二回は全員総出で草取りをする。少し離れた草原も、朝早くから草刈り機が轟音を立てながらきれいに刈る。せつかくみごとに群生していた美しいネジバナも、秋口に咲くツルボも、おかまいなしに、ぜんぶ刈ってしまう。手ごわいと見れば除草剤をまいて、一面に赤茶けた焼けたにする。それでもまだ足りないらしく、用務員さんが何日も地べたにしゃがみこんで、生えかけた草を一本一本、根っこからこそげとる。おかげで地面は裸になり、雨でも降ればツルツルすべって、どうしようもない。天気の良い日がつづけば土ぼこりは必然だ。

なんでそんなに草をとるのですか？ と聞けば、「雑草ですからね。」という答えである。雑草はだめで、花壇や芝生ならいいわけだ。消防庁のお達しだともいう。草が生えていると、冬、火災の危険があるそうだ。今どきコンクリートの建て物ばかりなのに、いったいどういふつもりだろう。

けれど、もつと根本にあるのは、「草ぼうぼう……」とか、「草の伸びるにまかせた……」という表現に示されているような、「手入れの思想」ではないだろうか？ 草など生やして……といわれたくないのである。自分の管理下にある土地に、「雑草」は生やしてはならないのだ。なぜなら、雑草は「とにかく」悪いものだからである。

同じことは山林についてもいえる。ほつたらかしの山を見て「もつと手入れをすればいい山になるのに……。」という人は多かるう。だが、「いい山」とは何を指すのだろうか。

美しく咲きそろった花壇、きれいな芝生、すくすくと伸びた杉林……そういうものがよくて雑草が悪いという感覚は、画一管理の思想につながる。いろいろな雑草が思い思いに生え、育つてゆくことを許せないのだからである。野山に緑を、といいながら、自分の家のまわりの「雑草」を退治するような感覚は、欺瞞もはなはだしいものだと思う。

*注 欺瞞——人をごまかし、だますこと。

(日高敏隆『日高敏隆選集V 動物はなぜ動物になったか』による)

問一——線部1「手ごわい」とありますが、草のどのような点が「手ごわい」というのですか。考えて答えなさい。

問二——線部2「手入れの思想」とはどのような考えですか。問題文中の言葉を用いて答えなさい。

問三——線部a「キツネにつままれた」とありますが、次の1〜6の□にあてはまる言葉を後のア〜コから選び、記号で答えなさい。ただし、同じ物はくり返して使えません。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|--|---|------------------------|---|-----------------------------|
| 1 | 窮鼠 <small>きゆうしゆ</small> を <small>を</small> かむ | 2 | 鶏口 <small>けいこう</small> となるも□後 <small>あと</small> となるなけれ | 3 | 犬□の <small>の</small> 労 | 4 | 鶴 <small>つる</small> は千年□は万年 |
| 5 | 鳶 <small>とび</small> が□をうむ | 6 | □に <small>に</small> らまれた蛙 <small>かえる</small> | | | | |
| ア | 亀 <small>かめ</small> | イ | 蛇 <small>へび</small> | ウ | 牛 <small>うし</small> | エ | 鷹 <small>たか</small> |
| | | オ | 犬 | カ | 猿 <small>さる</small> | キ | 鶴 |
| | | ク | 猫 <small>ねこ</small> | ケ | 猪 <small>いのしし</small> | コ | 馬 |

問四——線部b「おい□□と」の□にあてはまるひらがなを答えなさい。

問五——線部c「ツルツル」とありますが、次の1〜4の□には、同じように一・三文字目がタ行、二・四文字目がラ行のそれぞれ同じ文字からなる四文字の言葉が入ります。あてはまる言葉をひらがなで答えなさい。ただし、同じ言葉はくり返して使えません。

- 思うに、人生は短い。
- と脂あぶらぎつた顔。
- 不平を□のべる。
- 昼下がりに□まどろむ。

問六——線部d「コンクリート」とありますが、これは「コン」で始まる外来語です。次の1〜5の文の()に入れるのに適当な「コン」で始まる外来語を、後のA〜Gから選び、記号で答えなさい。

- 白と黒の配色の() () がきわだつ絵画。
- 製品の() () があいまいで消費者に伝わらない。
- 新企画しんきかくについて、社内の() () を得ることができた。
- 逆境ぎきやくの中でも自分の感情を() () する。
- 大量の情報を() () な形にまとめる。

- | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|---------|
| A | コンセプト | B | コンセンサス | C | コンタクト |
| E | コントラスト | F | コントロール | G | コンバクト |
| | | | | D | コンディション |

二 1〜4群の俳句の□には、「春・夏・秋・冬」のいずれかが共通して入ります。それぞれの季節を入れるのがよいか答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 流れ来るもの一つなき□の川
襟巻に首引入れて□の月
ことごとく未踏なりけり□の星
かくれなく重なりあうや□の山
五十嵐播水
杉山杉風
高柳克弘
蝶夢
- どこまでが父の戦記の□の空
伸びることのみに徹する□の草
河童の恋する宿や□の月
脱げがらの潜水服や□の雲
宇多喜代子
福田甲子雄
与謝蕪村
和家明子
- 足もとはもうまつくらや□の暮
遠山やしずかに見ゆる□の空
□の蚊の影のごときを払いけり
石山の石より白し□の風
草間時彦
高桑蘭更
檜紀代
松尾芭蕉
- 一草に一花の手はず□の雨
さまざまのもの流れけり□の川
地に触れるまでの華やぎ□の雪
□の海ひねもすのたりのたりかな
伊藤敬子
勝見二柳
山内遊糸
与謝蕪村

三 次の1〜5の各組の[A]・[B]に入る二つの漢字を組み合わせると、別の漢字一字ができます。その漢字をそれぞれ答えなさい。

- 他山の[A]とする — 面の[B]が厚い
- 夜を[A]に継ぐ — 去る[B]は追わず
- [A]死に一生を得る — 墓[B]を掘る
- 時は[A]なり — [B]中八九
- [A]をときめく — 立てば歩めの親[B]

四 次の1〜4の各群は、動作や状態を表す言葉です。各群の□にそれぞれ共通するひらがな二字を入れて、言葉を完成させなさい。

- はる□ ひし□ なぞ□
- ひろ□ むら□ ころ□
- ささ□ かが□ つぶ□
- なみ□ あわ□ きわ□

五 次の1〜6の各文の□に入る言葉を、それぞれ答えなさい。

- 大□ に乗ったつもりで、ゆったり構えている。
- 大□ を広げるだけでは信用されないよ。
- 不注意で窓ガラスを割って大□ を食った。
- おれは有史以来の天才だと大□ をたたいた。
- 大□ を切った以上は、あとには引けない。
- 大□ をふるって、不要な人員を整理した。

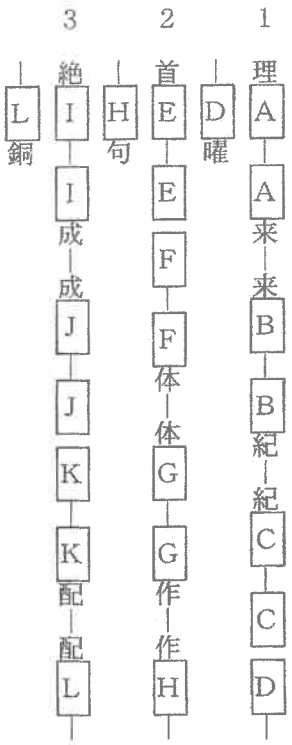
六 次の1〜3の各文章の——線部ア〜エには、敬語としてふさわしくない表現がそれぞれ一つずつふくまれています。その記号を答えなさい。また、選んだものを敬語としてふさわしい形に書きかえなさい。

1 このたびはすばらしいミカンを送ってくださり、まことにありがとうございます。さっそく家族でおいしくいただきました。実家がミカン農家のお母さんも、こんなにおいしい物は初めて食べたと申しております。

2 Aさんから、ここ数日あなたが体調をくずしていらつしやるとうかがいました。無理せずじっくりお休みしてください。元気なあなたとお会いできるのを楽しみにしています。

3 今日は気温が高かったので、いらつしやられたお客様には冷たい麦茶をお出ししましたが、どなたもおいしそうに召し上がっていました。喜んでいただけただよううれしく思います。

七 次の1〜3の漢字しりとりを、後の〔条件〕に合わせて完成させなさい。



〔条件1〕 示されている漢字も、□に入る漢字も、すべて音読みです。

〔条件2〕 示されている漢字の読み方は、一回目と二回目とで異なります。

〔条件3〕 □に入る漢字の読み方は、一回目と二回目とで異なります。たとえば、大学(だいがく) — 学校(がっこう)のように、「っ」に変化するものでもかまいません。

